



協友会通信 7 1986年冬

釜ヶ崎キリスト教協友会

代表 金井愛明

557 大阪市西成区萩之茶屋二一八一九
旅路の里 氣付

釜ヶ崎キリスト教協友会

TEL 〇六一六四一七七八三

カンパの 振替番号 大阪六一三〇五五九
送り先 釜ヶ崎キリスト教協友会

人を人として / 協友会の活動に「支援を

釜ヶ崎と人権

私たちのいと小さき動きをおぼえて、お祈りとご支援をいただき感謝をいたします。釜ヶ崎での活動をおして、多くの人々との出会いをいただき、喜びを深くしています。

本年度は「人を人として」というテーマに取り組みことになりました。「釜ヶ崎と人権」というテーマについてもよいと思います。

釜ヶ崎を、差別という視点から把握し、労働者の人権の問題を正面にすえて、越冬闘争に参加することです。

一九八三年の横浜寿町の労働者殺傷事件、山谷における右翼暴力団金町一家の労働者襲撃殺人事件、釜ヶ崎労働者の四天王寺境内における傷害事件と、悪質な事件が相次いでおきています。

直接手をくだすのは、暴力団や少年達ですが、社会がそれを是認し、黙認していることを背景に襲撃がなされていることに人間の生命の尊さということが軽視されつつある最近の傾向をおもっています。

具体的には、毎年クリスマス晩から、「一人の死者も出すことなく春とともに迎えたい」との願いをこめて、越冬プログラムに入りますが、多くの人の死に出合います。

今回もまた「一人の死者も出すことなく」との願いをもってはじめます。共同の生命を守る闘いに参加してください。

釜ヶ崎の素顔 '86年3月~10月

二月の声を聞くと、釜ヶ崎日雇労働組合は、八、五〇〇円（3月）

八六年春闘の準備です。釜ヶ崎に求人に来る飯場入夫出しの労働条件を早朝から一つずつ調べます。調査が終ると、五〇〇円の賃上げ交渉です。飯場がつぶれると決り願っていた所も結局昨年より五〇〇円アップの八、五〇〇円で今年の賃金は決まりました。決して高いとは言えないのです。元請けでは多分一万五〇〇〇円は出てます。

炊き出し（4月）

三月末までは、それこそ手配師の誘いを断るのが大変だったのです。四月になると一変します。朝の労働福祉センターには、全く求人用のバスが来ません。釜ヶ崎の朝は、春とは言え暗い日々で

一九八六年~八七年活動目標

- ①人を大切にす。
- ②協友会の日常活動の充実
- ③地域に生活センターを

す。失業した労働者は、「炊き出しの会」の炊き出しに並びます。その列は、越冬期よりも長いのです。七月まで続きます。

ドヤの新築（5月）

不況とは裏腹にドヤの新築ラッシュです。それこそ一ヶ月に数軒ずつドヤが大型化して建かえてです。ドヤ代も一緒に上ります。二、三年前は六、七〇〇円が平均だったものがいま一五〇〇円、労働者は、ますます厳しい生活を強いられています。新築のドヤと青カン（野宿）労働者が急増の釜ヶ崎の五月です。

回答ゼロ（6月）

青カン労働者は、梅雨期、大阪市内で約二千人前後と言われます。しかも、高齢、病弱、「障害」者がその大半で仕事にはつけません。その労働者への抜本対策を大阪市民生局へ要求しましたが、回答ゼロ。労働者自身の手で病弱者を入院させる活動をしました。

二四、〇〇〇人（7月）

軍拡と福祉切り捨ての背後には、合理化と失業があります。新空港建設もからんでいますが、このころ、釜ヶ崎には若い労働者が職場を追われて集って来ています。そのため二年前より労働者の数は八千人も増え約二万四五千となり、そのために特に、高齢病弱、「障害」者は、仕事につけず青カンです。

夏祭り（8月）

こんな暗い中で、八月の夏祭りには、久しぶりな夜店。みな故郷の夏を楽しんでいました。夏祭りのあとは、「釜ヶ崎生活センターを」スローガンに子どもと大人の実態調査。参加者は全国から六〇〇人も集りました。

映画「山谷」（9月）

映画は、佐藤満夫さん、山岡強一さんと二人の犠牲者を出しての完成でしたが、釜ヶ崎でも上映運動には力を入れました。二〇〇〜三〇〇人の小集会から五〜六〇〇人の集会など、九月までに計二万人の人々に観てもらい寄せ場への理解と連帯を深めてもらいました。映画「山谷」やられたらやりかえせ」のもっている力。

エアガン事件（10月）

十月、とうとう心配していたことが起ききました。エアガン事件「クサイ」といって、少年たちがエアガンで襲撃し重傷を負わせたのです。不況と能力主義崇拜が生み出した事件です。この冬は、この傾向に一段と拍車がかかりそうです。だからこそ、人間の生命を大切にす運動を前進させなければなりません。エアガン事件は、日本の危機をつげるサインです。こんな労働者の現実をあざ笑うかのように釜ヶ崎労働者の福祉にかかわる市の職員が二人、汚職で解雇されました。

「釜ヶ崎だより」

十二月中旬から下旬にかけて、どこの街にもネオンが輝き、ミュージックが流れ出します。「ひいらぎ」「ポインセチア」「サンタクロース」といった演出の中で、ほんとうの光を受け取らざる人々が無くす頃、釜ヶ崎でも又、クリスマスを静かに祝いました。



入院中の労働者とクリスマスキャロルを歌う
(1986年12月19日 阪奈病院)

日、協友会のメンバー数名と堺市の賢明学院高校の生徒10名がクリスマスプレゼントを持って阪奈病院を訪問し、釜ヶ崎から入院されている患者さん達とごやかな一時を過ごしました。

その夜、三角公園ではロウソクを片手にキャロリングが行なわれました。ネオンも飾りもオルガンもない中で、たき火とロウソクのささやかな炎に優しく照らされながら、想い出の唄をうたい、語り合いました。この静かな交わりの中にはしかし互いを励まし合い労り合う本当の強さ、本当の優しさが照らし出されていました。

力強さと言えば「もちつき大会」。1月2日、三角公園は大勢の労働者の熱気で気温が上がる程でした。「もちつき」の風景はどこで観ても力強いものですが、ここ三角公園の「もちつき」は一般と異なり活気に満ちています。特別出演のバンド演奏をバックに、かけ声もはずみ、労働者も大喜びで、つき上ったおもちを口いっぱいにはおぼりました。仕事の無い正月…。労働者達は他にも「のど自慢大会」や「運動会」など、色んな企画を立てて楽しみ、団結の力を確認し合っているのです。

労働者の団結力が増せば増す程強められるのが、警察権力の弾圧です。1月3日、梅田でアオカンを続けている仲間を励まそうと結集した労働者や支援の中から10人を逮捕するという暴挙が堂々とした行なわれたのには驚きと共に怒りを覚えます。労働者達が「生きるためにしている当然の闘い」を、理由にならない理由で弾圧するのは何故なのか。この疑問が消えません。

今年の越冬

'86/'87第17回越冬闘争を引きついで形で今年も協友会が1月

'86年10月5日 協友会例会で越冬小委員会出来る(代表薄田神父) 11月2日 協友会例会で、小委員会と事務所をつくることを承認。越冬関係連絡先を「旅路の里」にする。11月10日 大阪市教委指導部係長の人、労働者襲撃事件で研修に来る。協友会協力。11月10日 大阪市民生局から釜ヶ崎に関する大阪市汚職に対する抗議について回答。11月16日 協友会例会。1月12日、2月末の越冬について話し合い。四つの拠点をもうけ、グループの特色を生かし、夜間パトロールを

12日の夜より越冬活動を行っています。今回は、昨年におこった四天王寺境内における、少年らによる野宿労働者エアガン襲撃事件にあらわされているように、釜ヶ崎近辺、また全国的に見られる野宿労働者襲撃事件、日雇労働者差別に対し、人々を人として」というスローガンのもとに各グループとも動いています。また、今までの夜間パトロールを我々なりに総括し、夜間パトロールだけが、釜ヶ崎の越冬ではないということを再確認し、日雇労働者、釜ヶ崎の子供、老人を主眼において協友会各グループの特色を生かし、週に4日間、月曜日ふるさとの家、火曜日旅路の里、金曜日希望の家、土曜日子供の里を拠点に学習会、パトロール(夜回り)等の活動を行っています。特に土曜日の子供の里が中心になっている夜回りには、子供の里に集まる子供たちや青年、また近辺の学童保育の子供達を毎回30人前後集まり、自分たちがつくったおにぎりとお汁などをもつて回っています。そういつた中で、釜ヶ崎地区内で100〜150人、釜ヶ崎近辺(日本橋、天王寺、四天王寺等)では200人前後の労働者がきびしい寒さの中、野宿を強いられています。特にきびしい寒さの中の野宿では、高令、病弱労働者、仕事にいきたくてもいけないう状況におかれている労働者が目立ちます。そういつたきびしい状況におかれている労働者に対して、各グループともその日、あるいはあくる日に、医療・生活相談等も行っています。全体的にみれば非常に小さな働きですが、人を人として」という人間の基本的な生きる権利、人権に立ちかえり、それすらうばわれている日雇労働者、とりわけ高齢・障害・病弱労働者の生活保障の問題を中心に、今後も継続した形でつなげていきたいと思います。

支援者からのメッセージ

今年も寒い季節がやってきました。この手紙を書くときも私は暖かい部屋にいます。しかし宿るところもない人は……と考えると胸が苦しくなります。お年玉です。長靴を買って下さい。仕事があれば食事もできず、野宿して、冬になると寒くなり、かぜをひいたりして、ひどいときは死亡する。それでもがまんして、たえて、もうだめだというくらいにたえている。そのつらさをばくはそうぞおでもない。わずかです。使ってください。

おれとお願ひ

沢山のカンパ、お便りに支えられ励まされ、感謝しています。あと一息です。毛布・防寒着・カンパをお願いします。

送り先 557 大阪市西成区北津守四一四四 曙光会気付
釜ヶ崎キリスト教協友会 電話 〇六一五六一〇〇八六

越冬日録 '86/'87

中心とした越冬活動することを決定。
11月25日 大阪市に対し越冬に関する要望書他の六団体と共に提出 12月5日 望書他通信7号発送(五千五百部) 12月13日 協友会の越冬プログラム決定 12月17日 第17回釜ヶ崎越冬闘争支援連帯集会で金井代表あいさつ 12月19日 協友会による阪奈病院クリスマス訪問、賢明学院高校生協力 12月21日 協友会クリスマス・於ふるさとの家 12月25日 三角公園で越冬突入集会 12月26・27日 大阪北・南で野宿する労働者の医療生活相談 12月29・30日 大阪市民生局による臨時宿泊泊所開所。約九五〇人入所しか

'87年1月1〜3日 越冬まつり(のど自慢もちつき大会等) 1月3日 人民パトロール中梅田で10人逮捕される 1月5日 大阪市へ抗議デモ 1月6日 10人中8人に対して10日勾留延長 1月12日 勾留理由開示裁判(大阪地裁)夜から協友会の越冬パトロールはじまる。野宿労働者数一二一人(地区内) 1月15日 8人釈放される 1月18日 協友会・例会、越冬活動についての意見交流 2月1日 越冬活動交流会。於ふるさとの家



協友会通信 8 1987年2月

釜ヶ崎キリスト教協友会

代表 金井愛明

連絡先

557 大阪市西成区歳々茶屋一八一丸

旅路の里 気付

釜ヶ崎キリスト教協友会

TEL 〇六六四一七七八三

カンパの 送り先

振替番号 大阪六一二〇五五九九

釜ヶ崎キリスト教協友会

人として！ 協友会の活動にご支援を

「越冬突入集會」

一九八六年、十二月二五日今年もまた釜ヶ崎越冬闘争実行委員会主催による第十七回釜ヶ崎越冬闘争が、同日夕方の三角公園での突入集會をもって始まりました。当日は天候が今一つはつきりせず、この集會に支障をきたすのではないかと心配されましたが、三角公園に集った人達の熱気のせいでしょうか、なんとか集會を最後まで無事終える事ができました。今年の集會の特徴としては、昨年比べて支援の人達がふえていたの目につきました。このように支援の人達がたくさん集まった理由としてまず考えられる事は、例えば「関西山谷上映会」が、この「山谷」の映画を製作していく中で、殺されていった山岡さん、佐藤さんの意志を引き継ぐために、この「山谷」の映画あるいは講演を通して、「畜場」に対する理解・関心を深めてもらうために、全国各地を駆けめぐった事などが上げられると思います。さらに今年はこの越冬闘争の始まる少し前に、釜ヶ崎の近辺でアオカシしている人達に対して、少年達が襲撃してくるという事件が起こり、またその事がマスコミによって報道されました。この問題はただ単に少年達の問題として片付けられるべきものではなく、むしろその様な少年達の行為を生み出す、今の社会風潮こそ問題にしなければならぬと思います。この「アオカシる襲撃事件」が意味する所は、結局は釜ヶ崎の労働者に対する、今の社会の差別・偏見の一つの現れであるという事を一番実感しているのは、釜ヶ崎の労働者であると思うし、この様な社会の差別性に対して、闘っていかねければならないという事が、支援団体のアピールの中でも語られました。協友会も支援団体の一つとして、そのアピールの中でこの様な社会の差別性を問題にしつつ、越冬闘争に全力で支援して行く事を訴えました。ともかくも張りつめた雰囲気の中で集會は行われました。集会后、元氣よく皆で医療センターに向って出発しました。昨年と同様ロボットの様な機動隊に囲まれつつ…。

一九八六年～八七年活動目標

- ①人を大切にする
- ②協友会の日常活動の充実
- ③地域に生活センターを

大阪市に対する要望

釜ヶ崎では、一九八四年以来、日本の雇用情勢の悪化を反映して、「アイリン」職安の日雇用保険有効手帳数からみても毎月三〇〇名から五〇〇名が増えています。それに対して日雇用は一向に進まず慢性のアプレ構造の中で、特に高令層・疲弱者、「障害者」層が疎外されています。第十七回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会は、釜ヶ崎キリスト教協友会ら支援五団体と共に昨年十一月二十五日要望書を大阪府に対して呈出しました。

一、越年臨時宿泊所について

①二、〇〇〇人の臨時開設せよ

②臨時受けつけ窓口をすべての区福祉事務所に拡大し、その旨を周知徹底させること。

③入所に関する一切の差別差別をするな。

④自彊館パトロールによる差別選別前段「狩り込み」を廃止し、公に、前段入所を拡大せよ。

⑤府労働行政と連携し、就労復帰が自力でできない労働者の就労を援助し、就労できるまで越年保護せよ。

二、恒常的な労働者宿泊施設を建設せよ。

三、公的療養、通院

施設を新設すること。

と。もしくは、一時保護所機能を飛躍的に拡大させよ。

四、悪質精神病院への入院を中止し、悪質精神病院の解



越冬団結もちつき (1987年1月2日)
三角公園

体、閉鎖をすすめよ。

以下、省略

これらの要望は人が人として生きて行くために当然のことで、しかも毎年同じような要求を繰返さなければならぬのは残念です。市との行政交渉は十二月二十六日己に越冬が始まってから行われ、それも代表者六名、時間も一時間と限定されたものでした。行政の云う人権とは何かと考えさせられました。

福祉基金を増加しました

一九八五年度から八六年度の活動目標の中に「協友会の活動の充実」を掲げ、みなさまのご協力をお願いいたしました。おかげさまで各施設活動も又協友会全体の活動を夫れ夫れの成果をおあげすることができましたので、簡単にこの報告申し上げます。



子どもセンターの再出発をよろこぶ指導員と子どもたち

今年の四月一日から山王子どもセンターが「エリザベス・ローム記念、山王子どもセンター」として再出発することになった。昨年の協友会通信4号で、山王子どもセンターは日本キリスト教団のテレル教会の手から離れることが決定したためにその存続が危ぶまれていたことをお知らせいたしました。幸いに指導員、父兄そして多くの善意ある人々の熱意を支えられて土地、家屋を買取ることができ、活動を続けることができました。E・ストローム宣教師の灯を消さないように、地域の子どもたちにお互いに助けあい、人を大切にすることを遊びや学習を通して身につけて貰いたいと指導員、父兄は子どもたちと共に頑張っています。まだまだ経営的に不安を多く残していますので、更に援助が必要です。

「こどもの里」も地域にあつて、子どもたちが日雇い労働者と共に育ち、学ぶようにと三角公園で夏祭りや運動会を企画いたしました。八月二十二日、二十三日の夜、子どもと共に盆踊りを楽しむ日雇いのおっちゃんたちの心の中には子ども時代の郷愁がたどっていたでしょう。八月二十八日の夜に広島島の原爆をテーマにしたアニメーション映画「はだしのゲン」をみんなで観賞しました。更に十月十九日は運動会。大人の参加できるプログラムを多く組みました。地下足袋をはきこどもに負けじと走る老いた労働者の姿に人々は笑いながら声援を送る場面もみられました。

「ふるさとの家」では八月十四日「慰霊祭」を行い、「ふるさとの家」の納骨堂に安置されている方々だけではなく、広く無縁仏となった方々のためにも慰霊を致しました。本年度は無縁仏は百十体ありますが、多くの方々は東京オリンピック、万博と、いわゆる日本の高度経済成長時代を労働をもって支えてこられた方々なのです。

その他、協友会の各活動は夫れ夫れの目的に向って歩を進めることができましたが、協友会全体の活動も前進することができました。越冬闘争活動が終った四月十三日と十四日協友会は一泊二日の合宿反省会を行いました。全体としてはキリスト教会にまだ根深く残っている差別体質を反省し、矢田解放塾長西岡智さんより話しをききました。その中で西岡さんは宗教がどこまで差別されている人々と連帯できるかを鋭く指摘され、組織だけでは運動にならないこと、運動にするためには一人一人が苦しみを共にするのだけではないことを強く訴えられました。

合宿では協友会と釜ヶ崎との関わりの方々の具体的な問題も討議し、その結果、みなさんに寄せて戴きました献金は福祉基金として今迄以上に活用することに致しました。釜ヶ崎で病氣になれば

日雇い労働者の大半の方々は生活保護で入院して居り、退院しても帰る家はありません。又青カン（野宿）を強いられる労働者の中には高齢・病弱、「障害者」が目立ちます。その方々の中にはバタ屋さんをやって懸命に生きていらつしやる人も多いのですが、住む家がないということは、とても辛いことです。その方々のために協友会は福祉基金制度を設け、手頃なアパートをみつつけ、権利金や一・二ヶ月のアパート代を立替ることにいたしました。アパートに住むことができて返済にも努力しています。そういったことのためにケースワーカーの入佐さん、愛徳姉妹会のシスターや、出会いの家、旅路の里、協友会に関係する若い人々が互いに連絡し、協力し、助けあっています。又アパートが見つかるまでのために、ドヤの一室を確保し、その間の必要な「食費」を出すことになりましたがそれらの費用も協友会が負担し、食事は「ふるさとの家」「いい食堂」、「喜望の家」の「喫茶部」が引き受けて下さっています。今年の二月、東洋アパートの火事で六人の老人が焼死されたのですが、弱い立場にある人々が犠牲になる今の現場を少しでも改善して行きたいものです。

冬がきました

今年もまた冬がやって来ました。世間ではクリスマスやお正月の準備にあわただしい時ですが、釜ヶ崎の日雇い労働者にとっては、厳しい越冬の季節となります。



越冬もちつき（1986年正月）

今、釜ヶ崎の中で野宿している労働者の数は減っています。横行するシノギ（路上強盗）を避けて、日本橋など周辺部に分散しているためと思われれます。しかし、そうした場所からも、繰返し報道されたエアガンによる襲撃事件などにみられるような、言われのない差別により追いつて

られ、行き場を失なっているのが現実です。今年、キリスト教協友会は「人を人として」を活動目標としました。釜ヶ崎の労働者が少しでも「人間らしく」生き得る状況を創り出すこと、それがすなわち、私達自身が「人として」生きる事だと考えるからです。

年末年始、つらい青カン（野宿）を強いられる日雇い労働者が、また、私たち自身が「人として」生きている事を表わすため、今年もみなさまのご協力をお願い致します。

一 カンパ目標 一千万円

カンパによせられた金額は越冬のためばかりでなく、協友会の諸活動に用いられます。

二 物資の援助

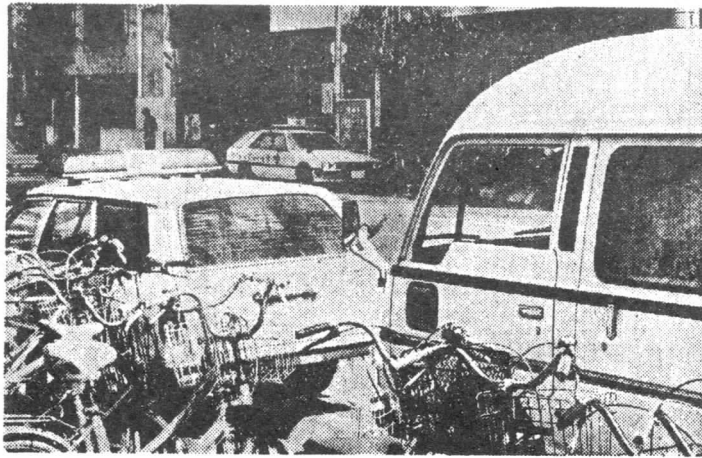
越冬期間中（十二月二十五日より二月一杯、寒さに応じて三月半ばまで）は、毛布、防寒着（オーバー、ジャンパー）、肌着、くつ下（新品）、タオル、セッケン、作業衣、ゴム長靴などが必要となります。

※みなさまのお手許にありますもので送って頂けるものがあれば
〒557 大阪市西成区北津守四一四一四 晩光会気付
釜ヶ崎キリスト教協友会

にお送り下さい。尚倉庫の都合上十二月二十五日以後に着くようにして下さい。あらかじめご了承ください。

※今年も皆様のご支援により、下着を購入入院患者へのクリスマス、プレゼントをする事が出来ました。

「入院患者をよろしく」



更生相談所前に搬送車の列

あいりん

大阪・あいりん地区にある大阪市立更生相談所前の路上に毎朝、民間病院の患者搬送車が行列をつくる。医療相談に訪れるあいりん地区の「要入院」患者が自当てで、多いときは十数台。整備の切り下げなど病院経営が「冬の時代」と呼ばれるなかで、この光景が出現した。「昔はこちらがお願いして来てもらったが、いまは向こうから来てもらう」と同相談所。今月四日、貝塚市の病院が西成区福祉事務所職員にわいろを贈った「あいりん福祉汚職」が摘発されたあと、車の台数はめっきり減った。

常連は20病院

経営の悪化で拍車

午前九時、更生相談所のシャッターが上がると、待ちかねたように病院の車が並ぶ。「沙外」と呼ばれる白衣の病院職員と車は一台、また一台と走り去っていく。

三層ロッカールームに設けられた控室で待機。扉すき、一〇〇病院さんと呼び声がかかり、「即日入院」の患者を乗せて車は一台、また一台と走り去っていく。

は三層ロッカールームに設けられた控室で待機。扉すき、一〇〇病院さんと呼び声がかかり、「即日入院」の患者を乗せて車は一台、また一台と走り去っていく。

さらに医療法の一部改正で、必要病床数を定めた「医療計画」を府県ごとに策定する。

区などの周辺病院のほか、東州や河内地区、なかには兵庫県下の病院からもやってくる。同相談所の村上喜恵所長は「病院と行政が癒着しているように見える」と警察から注意されたこともある。でも、特定の病院に患者が集中しないよう配慮しているし、並んでも空車で帰ることもある。以前は無理をいって患者を引き受けてもらった病院ばかりなので、来るなどは「いやな」と話す。

こうした光景がなぜ出現したのか。整備基準の大幅引き下げや健康保険の本人一部負担の導入で、病院経営が悪化したことを指摘する病院関係者が少なくない。常連病院の元沙外係は「フルマの人数だけ新規患者を連れていくと、特別手当が出た。とくに生活保護の患者が喜ばれた」と証言。病院経営の専門家は「健保や国保の患者と、診療報酬請求（レセプト）が医療費抑制で減額されること」が結構あるが、生活保護の患者は「まず通りますからね」と説明する。

とになり、今後病院新設、増床が難しくなった。この結果、いまのうちに新設、増床する病院が少なくなると、患者集めに拍車がかかる。

来月、あいりん地区周辺に新しい病院がオープン。村上所長によると、病院事務局長が最近「よろしくお願ひしませ」とあいさつに来た、という。

キリスト教ボランティアでつくる「糸ヶ崎キリスト教協会」代表の金井聖明牧師は、糸ヶ崎の患者といたっては差別されて病院に入れなかった時代に比べれば、病院の車が並ぶ今はよくなったといえるかもしれない。でも、患者がよよい病院を選ばず道は今も閉ざされている。一部の病院に食いものにまわっているのではないのか」と嘆く。

「あいらんいま」

師走。あいらん地区は今年もまた極冬の季節を迎えた。求人紹介数は八月以降は昨年を上回っているものの、円高不況による失業者の増加などであいらん地区の労働者は増える一方、就職機会が減る。状況は依然厳しい。こうした中で大阪市は例年通り、臨時宿泊所を設けて労働者を宿泊させる方針を打ち出し、さらに、地元でも益々

は昨年を下回ったものの、八月からはプラスに転じ、九月は昨年より九二%増の八万一千三百八十八人。こうした背景には民間の円高不況のデコ入れ策としての公共事業や関連

は昨年を下回ったものの、八月の労働者数は、五十六年三月は一万五千三十二人だった。が、昨年三月は一万二千四百八十四人。今年七月は一万三千八百二十一人と、六年近く

で約九千人増加するなど、就職機会も減少気味。また、不景

極分化”を起している。そして、求人のない労働者は、ドヤにも宿泊できず、段ボール集めなどをしながら野宿せざるをえない状況に追い込まれている。

一億五千万円の費用で、労働者に一日三食の食費、ふるのサービスのほかには着やタオルも支給。宿泊している労働者の七割が四、五十歳代。この臨時宿泊所と西成区・大阪自強館の定員を合わせると三千人だが、昨年は九百四十五人とかなりの定員割れ。宿泊希望を言っても、貯金がなくなる人、なごり師られた労働者が多いため、市側の対応への批判も強い。



就労機会も減りきみ

命懸けに闘争する 出先 越冬 出先 越冬



いっしょに越冬を闘い抜こう!

求人やや多めだが、今月初めから、西成区秋之茶屋の財団法人「西成労働福祉センター」の窓口には、年末年始をしても安心して過ごそうというあいらん地区などの労働者が詰めかけている。同センターによると、今年

平均年齢47・4歳、求人は昨年より「あやまめ」と分析。

求人の多い地域だが、今月初めから、西成区秋之茶屋の財団法人「西成労働福祉センター」の窓口には、年末年始をしても安心して過ごそうというあいらん地区などの労働者が詰めかけている。同センターによると、今年

平均年齢47・4歳、求人は昨年より「あやまめ」と分析。

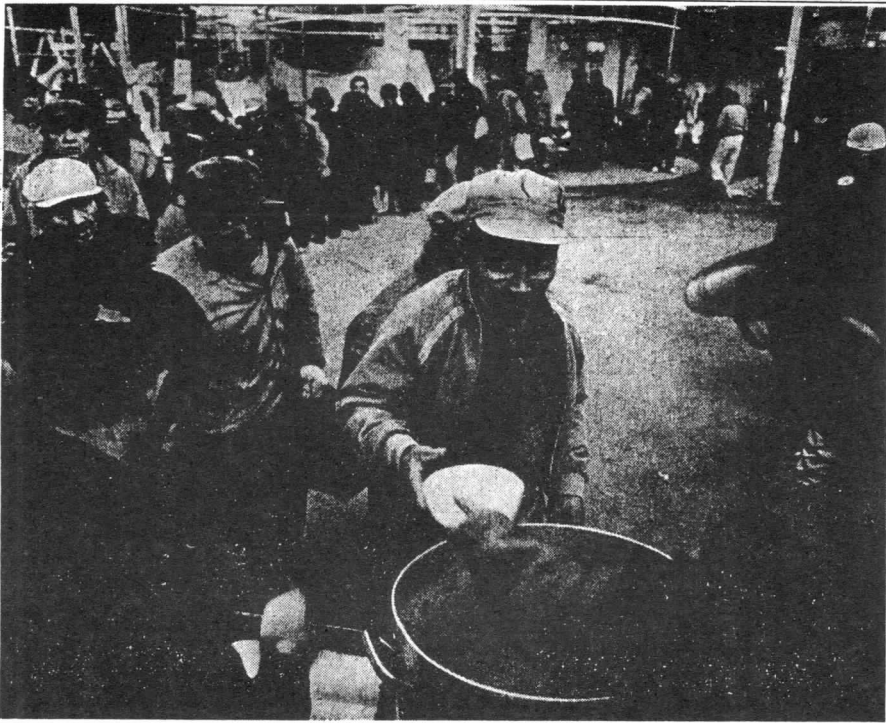
求人の多い地域だが、今月初めから、西成区秋之茶屋の財団法人「西成労働福祉センター」の窓口には、年末年始をしても安心して過ごそうというあいらん地区などの労働者が詰めかけている。同センターによると、今年

状況の中で雇用側が若い労働力を求めているが、同地区の労働者の平均年齢は五十四年四十四・七歳だったのに対し昨年四十六・八歳、今年は四十七・四歳と高齢化。求人の多い若くて技術を持った労働者と、高齢で専門職につけない労働者の格差が広がり、二

貯金があれば宿泊のため、大阪府は四十六年から続けている越冬対策事業として、住吉区南港南にプレハブ二階建ての臨時宿泊所(定員千

を闘い抜きたい。あいらん地区に集まる多くの仲間たちといっしょに越冬を闘い抜きたい。あいらん地区に集まる多くの仲間たちといっしょに越冬を闘い抜きたい。

（江森 政治記者）



まぢがど

釜ヶ崎

88.12.18

3 朝日

年齢制限に怒り

●求人数は増加だが ●年寄り敬遠されて ●40歳以上が8割も

立ってしまいがたいわ。正月休みを待たせていませぬなければならぬのに、十二月に入ってから「もう仕事にあらうつはな」「こんな状態が長く入りやたら、人を殺して刑務所にも入ったほうがましや」と吐き捨てるまじだった。

◇……………◇
Tさんは万博の二年間、釜ヶ崎にやってきた。酒は好きだが、まじめに働いてきたつもりだ。「むしむぢぢ、仕事せんか」なら、万博の金儲けは夢なんかたど木で思っている。仕事がない時はアシの手当をもらって暮らしてきだが、年が暮らにつれて、仕事が回ってこない。「一年前から、アシの手当を要するのに必要な日数分まで働けなくなつた。」

◇……………◇
「〇建設、四十五歳まで」といった年齢制限を誇いた求人カキが寄せ目で最近目立つ。五年前は六だったのが、今は四の勢だになる。ベテラン手配師は「一方仕事に経験なにかいらん、年ほごころ力はない、では話にならん、それに年寄りは所々が強いから、な」と、使う側の論理を語る。若くて力のある労働者を求め、一年前から「求」新聞に求人広告を出している。

あぶれ

若い労働者が立つ。体もひんぱらしたつも向ひられぬ。縁りだが、すぐに敬遠されてしまふ。白髪の下さるは、大。「しむまで隠せんからね。きめの帽子を深く、一人も強めてはいないのに、まじかぶつて隠せば、できた」とあかちが。服が命だ。だが、その目は

炊き出し

◇……………◇
三年前、釜ヶ崎の労働者の平均年齢は三歳といわれた。それがいまでは、四十七歳だ。十八のうち八人が四十歳以上だ。過酷な肉体労働と不規則な生活から、衰弱した労働者が出てくる人が多い。落ち込んだ目、深いしわ、五本しかない歯。海運入団の炊き出しの列に並ぶTさんは、七十近いお年寄りと思えた。

86.12.20 朝日

ぼろぼろ

金ヶ崎

+ 5

薄い毛布一枚
いそぎに寝
ていたとき
足音に身構え
た。「何するん
ぞ」の叫びが
とま出かか
た。が、真つ胸やみ目を凝ら
す。「シンキ路上強盗では
なかつた、仲間野宿が盗来
一ル箱を拾いに出かかちやう
だった。ほつとしたNさんは毛
布を一輪車に積み、自分も

◆ 望郷 ◆

段ボール箱を築め歩き出し
た。
沖縄で生まれたときから、田
畑を米菰基地に取り、長崎の
漁船の船員になった。その
が、あの仕事がついていなく
たが、ついに二十一年前、金
崎に流れて来た。無口で、危
ない現場でも黙々と働いた。稼
いだ金は仲達の両親に送った。ス
大坂市内で野宿している人は
千七百七十五人、去年十月の国勢
調査。五十五年より六百人余
り増えた。そして、金ヶ崎に
ける。二年に五人近くが行方不明
で死んだ。野宿労働者一人
も死なせてはならない。菰子
崎の労働者キリスト教関係者
に「感交闘争」が今年も二
十五日から始まる。

い現場でも黙々と働いた。稼
いだ金は仲達の両親に送った。ス
大坂市内で野宿している人は
千七百七十五人、去年十月の国勢
調査。五十五年より六百人余
り増えた。そして、金ヶ崎に
ける。二年に五人近くが行方不明
で死んだ。野宿労働者一人
も死なせてはならない。菰子
崎の労働者キリスト教関係者
に「感交闘争」が今年も二
十五日から始まる。

い現場でも黙々と働いた。稼
いだ金は仲達の両親に送った。ス
大坂市内で野宿している人は
千七百七十五人、去年十月の国勢
調査。五十五年より六百人余
り増えた。そして、金ヶ崎に
ける。二年に五人近くが行方不明
で死んだ。野宿労働者一人
も死なせてはならない。菰子
崎の労働者キリスト教関係者
に「感交闘争」が今年も二
十五日から始まる。

た。
沖縄で生まれたときから、田
畑を米菰基地に取り、長崎の
漁船の船員になった。その
が、あの仕事がついていなく
たが、ついに二十一年前、金
崎に流れて来た。無口で、危
ない現場でも黙々と働いた。稼
いだ金は仲達の両親に送った。ス
大坂市内で野宿している人は
千七百七十五人、去年十月の国勢
調査。五十五年より六百人余
り増えた。そして、金ヶ崎に
ける。二年に五人近くが行方不明
で死んだ。野宿労働者一人
も死なせてはならない。菰子
崎の労働者キリスト教関係者
に「感交闘争」が今年も二
十五日から始まる。

た。
沖縄で生まれたときから、田
畑を米菰基地に取り、長崎の
漁船の船員になった。その
が、あの仕事がついていなく
たが、ついに二十一年前、金
崎に流れて来た。無口で、危
ない現場でも黙々と働いた。稼
いだ金は仲達の両親に送った。ス
大坂市内で野宿している人は
千七百七十五人、去年十月の国勢
調査。五十五年より六百人余
り増えた。そして、金ヶ崎に
ける。二年に五人近くが行方不明
で死んだ。野宿労働者一人
も死なせてはならない。菰子
崎の労働者キリスト教関係者
に「感交闘争」が今年も二
十五日から始まる。

た。
沖縄で生まれたときから、田
畑を米菰基地に取り、長崎の
漁船の船員になった。その
が、あの仕事がついていなく
たが、ついに二十一年前、金
崎に流れて来た。無口で、危
ない現場でも黙々と働いた。稼
いだ金は仲達の両親に送った。ス
大坂市内で野宿している人は
千七百七十五人、去年十月の国勢
調査。五十五年より六百人余
り増えた。そして、金ヶ崎に
ける。二年に五人近くが行方不明
で死んだ。野宿労働者一人
も死なせてはならない。菰子
崎の労働者キリスト教関係者
に「感交闘争」が今年も二
十五日から始まる。

た。
沖縄で生まれたときから、田
畑を米菰基地に取り、長崎の
漁船の船員になった。その
が、あの仕事がついていなく
たが、ついに二十一年前、金
崎に流れて来た。無口で、危
ない現場でも黙々と働いた。稼
いだ金は仲達の両親に送った。ス
大坂市内で野宿している人は
千七百七十五人、去年十月の国勢
調査。五十五年より六百人余
り増えた。そして、金ヶ崎に
ける。二年に五人近くが行方不明
で死んだ。野宿労働者一人
も死なせてはならない。菰子
崎の労働者キリスト教関係者
に「感交闘争」が今年も二
十五日から始まる。

土産下げ帰りたい

●手ぶらではイヤヤ

●父親しくなっていく

●真つ黒な顔に涙...

野宿



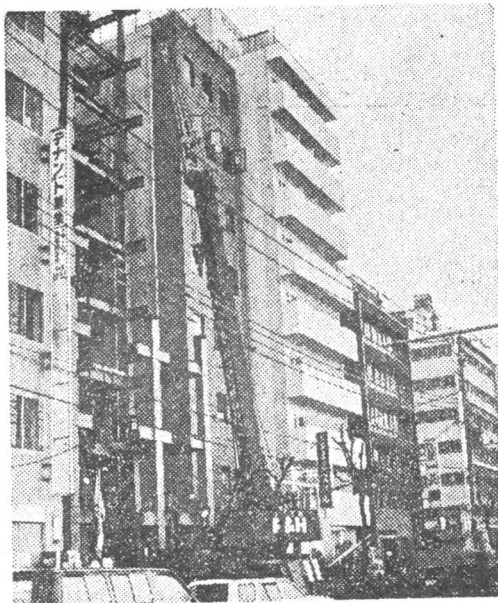
(C)S項おわけ

ドヤは豪華に、ふえる野宿者

冷暖房・カラーテレビつき

BGM流れるロビー

600万円大理石の柱も



ドラックスな簡易宿泊所の建設が続くあいりん地区

大阪府西成区萩之茶屋二丁目

したがほとんどで、部屋の大きさも三畳か四・五畳が主流になった。

建て替えブームの象徴といわれるのが今年四月オープンした「エスカルゴ」。古いドヤ二軒の跡に建った八階建てで、四畳から七畳の個室が二百二十室。外観が白亜のタイル張り、全室にカラーテレビ、冷暖房設備、防音防湿施設が整っている。このほかサウナ付きの大浴場もある。また、ロビーには一本六百万円の大大理石の柱がそびえ、BGMが流れるなど、これまでのドヤの常識を破った。ドヤ代も最高一泊三千円。

新しい簡易宿泊所が増えるにつれてドヤ代も一泊五百―七百元だったのが千五百円前後になった。土木建築関連の仕事が減ってきた二千日ごろから、労働者が「第二の故郷」のあいりん地区に戻って来て、ドヤもほぼ満室になるところが増えてきた。しかし、年末年始は平均十日の前払いをしなければドヤに入れないので、釜ヶ崎日雇労働組合によると、高いドヤ代が払えない労働者も加わって地区の野宿者は去年の一日平均百三十人を大幅に上回ったという。

西成・あいりん地区

宿泊料高騰払えず 不況風も追いうち

冷暖房 カラーテレビ付き。サウナや、BGMが流れるロビーには、六百万円の大大理石の柱がそびえる所も。大阪・西成のあいりん地区(釜ヶ崎)で、日雇い労働者向けのドラックスな簡易宿泊所の新築ブームが続いている。来年一月暫く予定の関西新空港や、昨秋起工式を終えた関西文化学術研究都市などのビッグプロジェクトに従事した労働者が多く、あいりん地区に流れ込む労働者が多くなる。それにつれ日当や失業手当の現金も増え、商売になるものの判断だが、ドヤ代(宿泊料)も二、三倍にはね上がり、この年末年始、ドヤ代の前払いがでずに野宿を強いられる労働者が増えそうだ。

業界の指導にあたっては西成保健所によると、あいりん地区には約二百軒の簡易宿泊所があり、この三年間で三十軒が建て替えを終え、現在十軒が工事中。一畳または一・五畳が大半の二、三階建てという古い木造のドヤを高層の鉄筋ビルに新築

ドヤを新築しているのはほとんどが以前からの業者だが、同酒屋、喫茶店、貸しふとん業などが本業の経営者が古いドヤを買って建て替える例も少なくない。鉄鋼や造船などの不況によりこの三年間で地区の労働者は一万八千人から二万四千人に増えた。「大規模プロジェクトが進むにつれてさらに人が増える。今でも釜ヶ崎には日当や失業手当で一日に一億円が落ちるのだから、現金商売のドヤは絶対にもつかる」と、ある業者。

無届けデモ10人逮捕

1.4日 釜日委員長ら

87大阪府警根崎署は三日夜、大阪市西成区・あいりん地区(釜ヶ崎一帯)の日雇い労働者の越冬対策などを求めて無届けデモをした釜ヶ崎日雇労働組合(釜日労)の山田実委員長(釜日)ら十人を、大阪市公安条例、道交法違反(無許可道路使用など)の現行犯で逮捕した。同署の調べでは、釜日労の組合員ら約三百人が三日午後九時から十時ごろにかけて、大阪・中々の地下街や阪急東通商店街などで約六百人がわたって無届けデモをした。仕事がなく路上で寝ている日雇い労働者の対策の充実などを訴えた。

青カン(野宿)を救え

86.12.21 釜日

薄田神父 訴える

釜ヶ崎

キリスト教釜ヶ崎協友会(代表日本キリスト教団西成教会・金井愛明牧師)の越冬委員・薄田昇神父(イエズス会)は、降誕祭を前に本紙を通して「つらい青カン(野宿)を強いられる日雇い労働者が、また私たち自身が人として生きることを表すために協友会の活動に、ぜひご支援を願いたい」と次のように強く訴えている。

釜ヶ崎と人権 私たちのいと小さき働きにお祈りとご支援をいただき、ほんとうにありがとうございます。釜ヶ崎での活動を通して、多くの人々との出会いをいただき喜びを深くしています。今年度は、「人を人として」というテーマで取り組もうとしています。

青カン(野宿)を強いられる日雇い労働者、労働者殺傷事件、山谷における右翼暴力団・金町一家の労働者襲撃殺人事件、釜ヶ崎労働者の四天王寺境内における傷害事件と悪質な事件が相ついでおきています。直接、手をくたすのは、暴力団や少年たちです。社会がそれを是認し、黙認していることを背景に襲撃がなされています。人間の命の尊さが軽視されつつある最近のこの傾向は恐ろしくです。

具体的には、毎年、クリスマス晩から「一人の死者も出すことなく、春をともに迎

えたい」との願いをこめて、越冬計画に入りますが、多くの人の死を見ます。ことしもまた「一人も死者を出すことなく」との願いをもって始めます。この共同の命を守る闘いに参加してください。

お願い 冬がきました。年末年始、つらい青カン(野宿)を強いられる日雇い労働者が、また、私たち自身が「人として」生きていくことを表すために、ことしもみなさまに次のご協力をお願いします。

①カンパ 目標一千万円。カンパに寄せられた金額は、越冬のためばかりでなく、釜ヶ崎キリスト教協友会の諸活動に用いられています。

義援金送り先 郵便振替口座番号大阪六一三〇五五九九
キリスト教釜ヶ崎協友会
(〒557大阪市西成区秋之茶屋2-18-9旅路の里内)

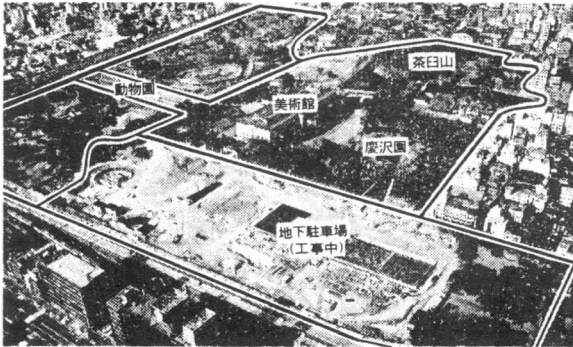
②物資援助 越冬期間中(12月25日より2月末まで、

寒さが続く場合は3月半ばまで)は毛布、防寒着(オーバー、ジャンパー)、肌着、クツ下(新品)、タオル、石けん、作業着、ゴム長グツなどが必要です。みなさまのお手もとにあるもので、送っていただけるものがあれば、保管上、前記でなく左記にお願いします。

救護物の送り先〒557大阪市西成区北津守4-4-44陽光会気付 釜ヶ崎キリスト教協友会

※疑問があれば、前記の旅路の里☎〇六四七一八三薄田神父にお尋ねください。

天王寺公園 柵で囲い込み



天王寺公園が美術館のまわり柵で囲い込まれる

天王寺博へ整備 有料化も検討

天王寺公園は天王寺動物園(約15)を含めて約二十五万坪、夜九時ごろまで開放する。約半世紀にわたって、市民の憩いの場として利用されてきた。長年自由利用されてきた天王寺公園が有料化された例はないが、大阪府公園局は「野宿する人が増えて、公園利用者が減る人が増える」として、柵で囲い込み、有料化を検討している。

「公園が味気なくなる」
作家・難波利三さんの話。大抵の人が共有している、風景が美しい未来を暗示する。天王寺公園は、柵をめぐらして、野宿する人が増える。天王寺公園には大抵の人が、味気ない場所になってしまわないか。あ。

八十坪の歴史のある大阪の天王寺公園を、二、五坪の金銭の値(笑)で、四回計画を、大阪府は上、明らかにした。二億九千九百万の事業費で三月から、工事始める。八月、日から同公園で開催される天王寺博覧会の会場整備が直接の目的だが、博覧会後も柵を残して園内に住みつ

いた野宿の人たちを締め出す狙いがあり、公園の有料化も検討されている。六年後の関西国際空港を、同公園を大阪市の南の玄関口としてよみがえらそうという動きともつながっており、長年自由に出入りができた公園の囲い込みには市民の反発も予想される。

野宿締め出し図る 大阪市



朝日新聞大阪本社
大阪府北区中之島3-2-4 5F
電話 (06) 231-0131
朝日新聞大阪本社 1987

春もや
けしきとのか
月と梅
カルピ
ポテトチップス

天王寺公園... 明治三十六年(1901)に、内閣勅令で、博覧会場を建設が認められ、明治四十二年(1897)に、博覧会が開かれた。大正四年(1915)に動物園、同十年に住友から寄贈された鹿沢園を茶臼山などが加わり、昭和三十二年(1957)に、既述の花壇が完成した。

釜ヶ崎訪ね感じたこと

日雇いの労働者として、朝晩食をとりながら、つと見つけようとする。釜ヶ崎(あの街)へ先日行って来ました。正直行って来ました。直なところ、何だか怖くて「やめて帰ろかしら」、道中何度もそう考えました。しかし私のそんな偏見は、宿に一泊して翌朝五時に起床して近くの労働センターに行った時にすべてぬぐいさられました。

ほかにつき刺さる朝の冷気の漂う建物の中は、その寒さと、今日も仕事を求めてやってきた日雇いの労働者たちで満たされていました。薄暗く寒い中でだれと話をすることもなくただ黙々と



「親孝行せなあかんぞ。しっかり勉強して幸せにならんやで、そちや幸せにならんやん、幸せにならんや、なあー」目に涙を浮かべて何度も何度も言われました。また「家族の話にはノーコメントや」。そう言っておいて自分から家族の話をおじさんは二十回近く入退院を繰り返して、現在は近々入退院を繰り返して、現在はカ(野宿)を余儀なくされ、友人の一人も持たずに日々をさびしく孤独に暮らしている彼らに、私たちは積極的に働きかけをすべきです。

私は今、改めて真実を見る目、真実を聞く耳、そして真実を語る口を持つことの大切さを痛感しています。二十一世紀を担っていく若者の一人として、私は釜ヶ崎で体験したことを自分自身の中に強く焼きつけ、今

日からの日々を感謝と祈りの気持ちを持って生きて行くと思っています。私はこの目を一生忘れることはないと思信しています。

もしこれを読んで下さったなら、幸せ過ぎる、豊か過ぎる自分たちの生活を今一度振り返って、自分のなすべきことをよく

考えてみて下さい。これがそのための参考になれば幸いです。そしてだれもが幸福だと感じられるような素晴らしい日本を私たちが国民一人一人の手で築き上げて行くにはありませんか!!

広島県 佐藤 理恵 (高校生 17歳)

日雇い仕事をしてみた

一月二十五日付声欄「野宿者へ偏見なくそう」を読み、本当に感動しました。

僕は高校を卒業してから就職まで少し時間があったので、日雇いの仕事を三日間したことがあります。その時に出会ったおっちゃんたちは人間味あふれた思いやりのある優しい人たちで、良くしてもらいました。

ある時、一人のおっちゃんが午後の休憩の時、話しかけてきてくれました。「大阪に出て来た時はいろんな仕事やったので、あ、いろいろあってこうなつて

か果物を貨物船から運びおろす仕事とか、その他いろんなやつてきたわ」。そして「こないだわしの仲間がな、ビルの建設作業中に足滑らして落ちて、頭強う打って死んでまいったわ。わしらみたいな仕事は死んでもけがしてもなんの補償もあられへん。わしも昔、仕事中に上から物落ちてきて、えらい腕けがしてんでえ」と。

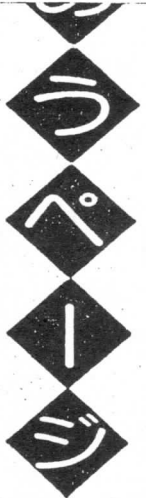
それを聞いた時、この社会に對して腹立たしく思いました。そして「ほんつと一言」まあなあ、いろいろあってこうなつて

おっちゃんたちは、朝四、五時に起きて仕事を見つけに行き頑張っている。人にはそれぞれ辛い事情や生き立ち、だれにも言いたくない、また言えない過去がある。

けど都会へ出て来て仕事を見つけるのは難しく、その上頼る所もなく独りの身、だれだって心細くなる。おっちゃんらから自分に合った仕事を見つけたら、自分はその立場に立てばいい。自分がその立場に立てばいい。自分だけが。怠け者とは絶対違う！ 仕事がいやなくて、仕事がないんです。

今の時代、大人も若者も人間が人間としての心のあり方を失い、人を思いやる心が欠けてるような気がします。悲しいことです。

大阪市 匿名希望(19歳)



あいらんのママ ありがとう

1977.6

スペイン修道女コラールさん



労働者の世話13年

病に倒れ 故国へ

労働者の町・あいらん地区 コラールさん(五三)が病に倒
(大阪市西成区)に住み、定 れ、六日午後、療養のため大
宿のない自由労働者や身寄り 阪空港から故国へ向け旅立
のないお年寄りらに毛布など つ。滞日二十年。人なつこい
を配り、いつも笑みを絶やさ 笑顔とエネルギーな行動
ず献身的な活動を続けてきた でたれにも愛され、入院中も
スペイン人修道女、マリア・ あいらん地区の人たちの身を
食事や身の回りの世話を続

け、五十四年に完成した地域
の子供のための「子ども里」
設立にも力を尽くした。
コラールさんは五十九年六
月、大阪大学医学部付属病院
(大阪市福島区)で乳がんの
手術を受けた。その後、経過
はよかったが、昨年末から不
調を訴え、今年一月から同病
院に再入院。スペインから駆
けつけたコラールさんの姉が
「故郷で療養させたい」と願
い出、病院側も許可、帰国が
決まった。

二年に來日した。カトリック
系の「守護の天使修道会(大
阪市西成区山王)の修道女
で、來日当時、大阪府吹田市
内に住み、私立英知大(兵庫
県尼崎市)の助教授としてス
ペイン語を教えた。その後、
あいらん地区の人たちの姿を
見て「何もできないけど、せ
めて彼らと一緒にいたい」
と、四十九年同地区に転居。
通称三角公園そばの「ふるさ
との家」で、ドイツ人神父ら
と一緒に訪れる労働者のため
に、食事や身の回りの世話を続

は、愛するあいらん地区につ
いてメッセージを託した。
わたしが初めて訪れた時も
今も少しも変わっていませ
ん。弱い立場の人々に対して、
政治があまりにも冷たい。ア
メリカやイギリスでもこんな
ひどいことほありません。も
っと温かい政治が必要です。
日本の人たちも知らぬ顔です
るのほやめて、自分のごとこ
として、あいらん地区をみつめ
てほしい。あいらん地区のみ
なさんに、お礼と感謝を下さ
げます。

いつも笑みを絶やさず多く
の人に愛されたコラールさ
ん(60年夏、英知大の講義
で
.....
氣遣ったコラールさん。「政
治はもっと温かく」——病
で二度と来日は望めないとい
う彼女の残した別れの言葉だ
った。
コラールさんはスペインの
マドリッド大を卒業し、四十

大阪府西成区に住む小、中学生たちと、あいりん地区の野宿労働者の間で、新たな交流が始まった。今年になって週一回、深夜に手づくりのおにぎりとみそ汁を子ら野宿労働者に配って回った。春休みになったら、早朝仕事に出かける日雇い労働

者から話を聞、「きたない、交流の成果を見守っている。思いつた。同じところに住り。小、中学生三、四十人と父母や同会メンバーの四、五十人が参加した。毎土曜の午後二時に同区秋之茶屋二丁目の児童施設「こども里」に集合。家から持ち寄った米やみそで三百人分のおにぎりとみそ汁を二時間余りかけてつく。おにぎりはラップで包み、みそ汁は魔法瓶に入れる。

午後十時、あいりん地区周辺を四コースに分けて、二、三十人グループで出発。毛布をかけて荷車の上や段ボール箱の中で寝入った労働者に、付き添いの大人が見守る中、「おっちゃん、おながすいてない」と声をかけ、プレゼントした。寒さでふるえている人には持参した毛布をかけた。交流は午前零時すぎまで続く。野宿者の一人で、南海今宮駅前で最近泊まりしている鹿児島出身の黒川清徳さん(50)は「子どもたちの来るのが楽しみ。こんなおいしいおにぎりをみそ汁は久しぶり」と喜ぶ。

交流に参加してきた今宮小学校六年、竹平恵子さん(13)は「野宿しているのは、けがや病気で十分働けない人はかわいだと分かります。夜の巡回では、身の上話をしてくれたり、私たちがのことを気づかってくれたり、みんな優しい。最初思っていたのと、だいぶ違った」とい

あいりんの おっちゃん 一生懸命生きています

87.3.12
朝日(7)



リヤカーの中で野宿するおじさんにみそ汁やおにぎりを配る子どもたち＝大阪市浪速区の南海今宮駅前で

土曜の夜は 子どもと野宿労働者交流

おにぎりと、みそ汁持って

四天王寺の襲撃事件機に

春の京都は
定期観光バス
手軽に京めぐり・味めぐり 昼夜25コース

☎075(672)2100

京都駅丸の内口・八条口・京阪三条駅南口
■京阪バス ■京都市交通局

う。同会メンバーの中助共子さんは「おにぎりをみそ汁の配布は今後も機会をみてやりたい。とあえず、こどもは日雇い作業員の話聞き、違う一面も学んでくれたら」と話している。

'86年度協友会活動へのご支援に心から感謝します

皆様方のいつに変わらぬ力強いご支援を受け、私達協友会の活動も年一年と充実した働きができるようになりましたことを、厚くお礼申し上げます。釜ヶ崎においては毎年のように、私達の予測しない事態が起こり、緊急に鳩首協議することもしばしばです。

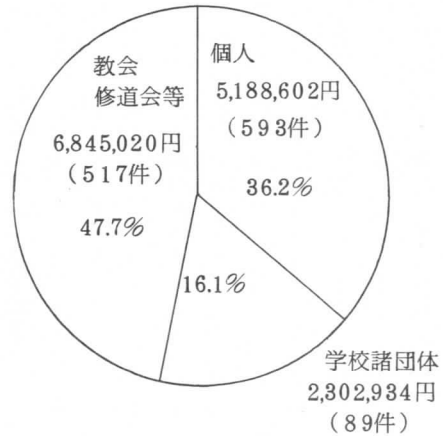
特に今年は年度末迄に売上税問題等にて予算審議に入れず、今臨時国会で審議される始末で、その間4ヶ月釜ヶ崎での仕事は急降下、就労状態は最悪に陥り、夏場の飯場帰りの労働者を加え、3万人の人であふれそうです。その大半は仕事に就けない人達です。

今迄は越冬が釜ヶ崎支援の中心でしたが、これからは、暑い汗の季節も飢と病気の大事な時となり、年間パトロールの実施、医療相談、炊出し、その他いろいろな問題に忙殺される日々です。

カンパ支援

1986年4月～1987年3月末

総計 1,199件 14,336,556円



これらの仕事にも、安心して活動できるのも皆様のご支援、ご協力によるものと深く感謝しております。

'87年の活動に対しても、変わらぬご支援を宜敷くお願い致します。(会計・谷)

地域	種別	個人		教会・修道会等		学校・諸団体	
		件数	%	件数	%	件数	%
大 阪		115	19.3	88	17.0	15	17.1
近 畿		121	20.4	144	27.9	33	37.3
中 国		46	7.8	63	12.2	9	10.2
四 国		15	2.5	24	4.6	4	4.6
九州・沖縄		73	12.3	79	15.3	12	12.2
東 海		23	3.9	14	2.7	3	3.5
東 京		67	11.3	46	8.9	3	3.5
関 東		66	11.3	21	4.1	4	4.6
東 北		27	4.6	19	3.7	2	2.3
北陸・信越		24	4.0	4	0.8	1	1.2
北 海 道		16	2.6	13	2.5	3	3.5
海 外				2	0.3		
合 計		593	100%	517	100%	89	100%

編集後記

一九八七年八月

大阪二十一世紀協会が人と人との間に大きな柵を置いてしまった。

天王寺博は生命の尊さ人間に動物に植物に温いまなざしとゆとり、うるおいをとり戻す心の糧になるんですよ。わずかな緑の木々を掘倒し、やさしい芝生を踏みつぶ

し冬からの仕事もなく、つかれが癒えぬままに野宿している労働者を追っばらい、八月一日天王寺博覧会が開かれた。公園に誰かが腰をおろし、キャッチボールをしたり、青空の下カラオケ大会に参加したり、木影の下でポケッーとする。もうこんな場はありません。

一方同じようなことが病院で公認されています。年老いた労働者が今、意識なく病床に生きています。本人はおそらく望まないだろう。大きなホースを口に入れられ顔中

テープで固定し両手はベッドにし

ばられ次々と注がれる点滴とクスリ黒々とした輸血、それでも尚ガース、ガースと呼吸が続いているように、一本でも多く葉を使いましょるか。(E)

越冬闘争が終わって直ちに編集に取り掛ったこの報告書も編集後記を記すところまで漕ぎつきました。

湖でボートに乗ったとき突風が吹き、漕げども漕げども岸につかず、やっと辿りついたときには全身の力が抜けてしまったことを思い出します。釜ヶ崎も今は夏。焼けつく戸外で働いている日雇いの労働者の姿をみると頭が下がります。仕事があつてこそ日雇いの労働者に誇りがあります。それだけに働らきたくても仕事がなく、野宿

を強いられる労働者は増える一方。胸が痛みます。「国際居住年」に大阪二十一世紀協会は「天王寺博覧会」を主催し、天王寺公園で野宿していた労働者を追い出すことを仕事始めにしました。

家のない人々を追い出してどこ

にお祭りがあるのでしょいか。「国際居住年」とは家のない人々の事を第一に考えるべき年ではなかったのでしょいか。人が人として生きて行ける日が一日も早くくるためにも私たちの鋭い感覚と自覚が要求されるこの頃です。(S)

早いものでもう八月です。越冬からこっちも、あれやこれやといそがしくしてる間に、もうセミは

なくわ、ノミはとぶわでおわれてるなアと少し感じます。仕事ができだして釜ヶ崎も四、五、六月のアップレ期より活気がでてきました。その裏では仕事につけない「高齢」の労働者や「体の弱い」労働者は、相変わらず野宿を強い

られ、あちこちで排除され市内に拡散させられています。…とにかく体に気をつけてみんなガンバロ、釜ヶ崎は常に「とっかん」だ。(G)

今年、いわゆる越冬が終わって

も夜まわり(パトロール)が続いています。月・木・金のグループがそれぞれの特色を生かして、釜ヶ崎およびその周辺をまわります。夜まわりを通して、今の時代の厳しさを教えられます。とにかく釜ヶ崎周辺だけで一千人も労働者が、野宿をしいられています。その横で、「いのちいきいき人、いきものの共存をめざして」なんて天王寺博が行われています。大阪二十一世紀協会の発想です。二

世紀協会の軽薄さをあらためて知らされます。今年の報告書は、一

か月例年より遅くなりました。特色を出そうと編集したことは、編集委員会の誇りです。はじめから終りまで読んでネ。(K)

協友会通信 9 釜ヶ崎 1986年越冬

- 発行日 1987年9月10日
 - 発行所 大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
旅路の里気付
 - 編集 「協友会通信9」編集委員会
 - 印刷所 (株) 木村桂文社
 - 頒価 300円
-